自殺念慮を有する者への遭遇体験と精神的健康の関連

高橋あすみ¹, 田中大輔¹, 谷秀次郎¹, 青木佐奈枝²

(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科・²筑波大学)

キーワード: 自殺念慮, SUD, BDI-II

The relationship between encountering people with suicidal ideation and mental health

Asumi TAKAHASHI¹, Daisuke TANAKA¹, Shujiro TANI¹, Sanae AOKI²

(¹Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, ・² University of Tsukuba.)

Key Words: suicidal ideation, SUD, BDI-II

目 的

「本気で自殺を考えた経験」は若年層ほど高く、20代では36.2%に深刻な自殺念慮が認められる。また、自殺既遂前に未遂を行った者の割合も30代以下が他の年代よりも高いと言われている(内閣府, 2012)。「自殺を考えた」青年が行った対処として「身近な友人や知人に話を聞いてもらう」が4割と最も多いが(内閣府, 2011)、この事実は、知人から自殺念慮の告白を受けた青年も相対的に多いことを示している。近年では直接的な告白の他、インターネットを介して間接的に告白される体験の増加も推測され、相談される側にとっても以前とは別の困難が加わっていることも考えられる。

そこで本研究では、自殺念慮を有する者への遭遇体験、自殺念慮に関する被告白体験と、遭遇者・被告白者の精神的健康との関連について検討を行う。

方 法

調査協力者 関東圏内の大学生 313名(男 145名, 女 166名, 不明 2名, 平均年齢 20.53±2.28歳)

調査内容 ①自殺念慮および自殺行為が身近に起きるかどう(「1: まったく身近に生じない」～「4: 非常に身近に生じる」の4件法), ②知り合いの中の自殺念慮者の有無(「はい」「いいえ」), ③自殺念慮者の内訳(家族・親族, 友人, 恋人, 顔見知り・さほど親しくはない知人, その他), ④知人の自殺念慮を知った経路(本人から直接告白・相談, 本人からメールで告白・相談, Twitter・ブログ等, 別の知人・第三者から, うわさで, 自傷の現場に居合わせた, 傷を見た, その他)を尋ねた。また⑤自殺念慮を知った時の苦悩度(「0: まったく苦痛がない」～「10: 最大の苦痛」)および、困惑度(「0: まったく困らない」～「10: 最大の困惑」)についてそれぞれSUD (Wolpe, 1958) 11件法で尋ねた。また、抑うつ傾向を測るためにBDI-II (Beck, 1996) 21項目を用いた。

結 果

身近な人の自殺念慮に遭遇した体験を持つ者(遭遇群)は108名(34.5%), 体験のない者(非遭遇群)は204名(65.5%)であった。

Table1 自殺念慮を「Twitter・ブログ等」で知った経験と「苦悩度」のクロス集計表

		自殺苦悩度		合計
		高群	低群	
Twitter・ブログ等で知った経験	あり	9	16	25
	なし	55	28	83
合計		64	44	108

注) $\chi^2(1)=7.29, p<.01$

1) 自殺念慮の情報経路の種類と精神的健康との関連

遭遇群が自殺念慮を知った情報経路の種類によって、SUD・BDIの得点が異なるかを検討したところ、「Twitter・ブログ等」で他者の自殺念慮に遭遇した者の苦悩度は、他の情報経路と比べて低い傾向にあった($\chi^2(1)=7.29, p<.01$) (Table1 参照)。

2) 自殺念慮および自殺行為の身近さと精神的健康

自殺念慮遭遇群と非遭遇群の精神的健康の比較では、遭遇群のBDI総得点が有意に高かった($t(184.77)=-4.98, p<.01$)。また、遭遇群、非遭遇群ともに、自殺念慮を身近に感じるほど、BDI総得点($r=.44, p<.01; r=.25, p<.01$)および「身体的感情要素」($r=.33, p<.01; r=.14, p<.05$)「認知的要素」($r=.47, p<.01; r=.31, p<.01$)の全ての得点が高いことが示された(Table2 参照)。

3) 自殺念慮遭遇体験数と精神的健康との関連

遭遇群の中で自殺念慮を有する他者に複数遭遇した者(27名)は、そうでない者(79名)よりも、BDIの「身体的感情要素」得点が高いことが示された($t(99)=-2.66, p<.01$)。

考 察

本研究の結果から、知人の自殺念慮を「Twitter・ブログ等」インターネットを介して知った場合は、他の経路で自殺念慮に遭遇した場合よりも苦悩度が低いことが示された。Twitterやブログでは、その発言の信憑性がわかりづらい、自分に向けられているとは限らないといった要因が推測される。一方、自殺念慮遭遇群の方が非遭遇群よりも全体的な抑うつ感が高く、その中でも自殺念慮を有する知人に複数遭遇していると、身体・感情的な抑うつが高かった。このことから、自殺念慮と遭遇する体験は精神的健康に悪影響を及ぼし、更に遭遇体験が多くなると、本人が認識しない部分で抑うつ感が高まる可能性が考えられる。また、遭遇体験に関わらず、自殺念慮を身近に感じるほど抑うつ感が高くなることも示された。自殺念慮との遭遇は、自殺念慮の身近さを増すとも考えられるため、今後は遭遇体験が精神的健康にどれ程影響を与えているか、その因果関係などをより詳細に検討することが望まれる。

Table2 自殺念慮の身近さと精神的健康の相関表

変数	1	2	3	4	5	6	7
1 自殺行為の身近さ	—	.53 **	-.13	-.13	.25 **	.14 *	.31 **
2 自殺念慮の身近さ	.33 **	—	-.07	-.05	.40 **	.28 **	.46 **
3 苦悩度	-.17	-.07	—	.84 **	-.04	-.02	-.05
4 困惑度	-.16	-.19	.82 **	—	-.03	-.01	-.06
5 抑うつ感	.15	.44 **	-.04	-.04	—	.91 **	.92 **
6 身体的・感情的要素	.08	.33 **	.00	.00	.91 **	—	.66 **
7 認知的要素	.19	.47 **	-.08	-.08	.92 **	.68 **	—

注1) 左下が自殺念慮遭遇群、右上が自殺念慮非遭遇群を表す

注2) ** $p<.01$, * $p<.05$